

立沢里山

平成22年5月22日 立山新聞 第19号

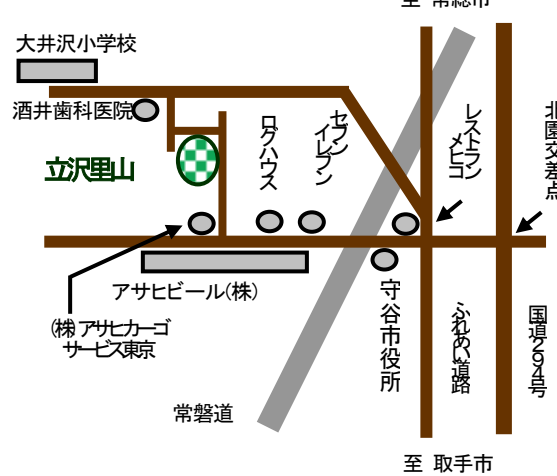
発行：立沢里山の会 代表 鈴木 榮
 問い合わせ先：事務担当
 須賀（守谷市役所内 45-111 内線 351）
 立沢里山ホームページ
<http://www.geocities.jp/tatuzawasatoyama/>

ボランティア募集
 あなたも一緒に楽しみましょう！

～目次～

- 1 竹林整備作業 11月
- 2 立沢里山の会総会 2月
- 3 平成22年の事業計画
- 4 炭焼きの準備 3月
- 5 窯入れと花見 4月
- 6 火入れと閉塞 4月
- 7 窯出し 5月
- 8 移植した花は

【案内地図】



「立沢里山新聞」の記事をお願いします

denen21@hb.tpl.jp

清野



- ・平成22年度の活動計画について、本年度から基本作業日を毎月第4土曜日（9：00～）とする。
- ・特別事業について、炭焼きについて小田原さんより今後の予定について説明を受ける。炭焼きは3月末から4月始めの予定で行う。それまでに材料の加工を行う。
- ・定期会議の設定について、会議の定期開催を協議する。これは、今まで勉強会や意見交換が少ないことを踏まえ提案があったもので、協議の結果、偶数月の作業日（第4土曜日）の午後に行うことに決定する。8月は、作業日が「夏祭り」となることから7月に設定
- ・10周年記念事業について

月・日・時間等	活動内容	区分
02/06(土) 10:00～	立沢里山の会総会	会員等、中央図書館
03/06(土) 9:00～	竹炭焼き準備、加工作業	会員等、立沢
03/27(土) 9:00～	竹材搬入作業	会員等、自然博物館
04/08(火) 9:30～	竹炭焼き窯火入れ	会員等、自然博物館
04/10(土) 17:00	炭窯全閉塞火止め	会員等、自然博物館
04/24(土) 9:00～	田んぼ準備、除草、ゴミ拾い	会員等
05/15(土) 09:00～	田んぼ準備、代かき等	会員等
05/16(日) 09:00～	竹炭窯出し	会員等
05/19(水)	田植え	小学校児童、会員等
06/26(土) 09:00～	田んぼ除草等	会員、学校等
07/24(土) 09:00～	除草、ゴミ収集	会員等
08/21(土) 22(日)	北守谷夏祭りバザー参加	会員等、立沢公園
09/11(土) 09:00～	稲刈り準備、おだ作り、除草等	会員等
09/13の週	稲刈り	小学校児童、会員等
09/下旬	脱穀、粃すり	会員等
10/23(土) 09:00～	おだ片付け、除草、木道等	会員等
10/23(土) 16:30～	会員懇親会	会員等
11/27(土) 9:00～	竹林作業	会員等、立沢
12/25(土) 9:00～	竹林作業	会員等、立沢

(1) 実施期日
 大まかな方向として、市制施行10周年を平成24年に迎えることから、それに合わせて実施することとする。

(2) 事業内容
 5周年記念と同様の祭り形式による実施は、来場者数（5周年時は600人）の増加がかなり予想されること、スタッフ確保が困難であること、すでに「立沢里山」の認知度はかなり広まっていることなどを考慮し行わないこととする。

事業内容は、今後検討することとしたが、各自思いつく事業（写真展、講演会、他自然団体等との連携開催等）を持ち寄り整理したうえで決定する。

・その後、立沢里山の全体構想について意見交換を行い、今後、協議を行い可能なものから実施することとする。

- ・その他、アサヒカーゴ側の田んぼの再生については、今後の田んぼの体験事業の拡大を目的に、新たな田んぼの再生について再度協議を行ったが、地盤状態の軟弱さが予想され、トラクター等による作業は不可能と考えられることから、新たな再生は難しいと判断する。

3 平成22年事業計画

前述のように、第4土曜日の9時から午前中を定例作業とし、作業の進行状況によって随時調整する。偶数月は作業後の午後から、全体打ち合わせを行う。場所や議題など詳細は別途連絡する。

1 竹林整備作業

夏場の「田んぼの学校」は脱穀作業が終わり一段落しました。替わって冬場は里山周辺の竹林整備と炭焼き作業です。

炭焼きは竹林整備に始まって、乾燥、定尺裁断、小割り、運搬、炭焼きまで、多くの工程があり、春先までの長丁場です。

11月28日（土）昨年に引き続き海老原会長のご理解で、竹林伐採を行いました。道路に面した竹林なので後の作業はやりやすい。切り出した竹は2.8mに揃えて軽トラックで立沢里山の駐車場に運搬しました。



昨年は、自然博物館に運搬してから作業しましたが、今年は駐車場のスペースを借地したので、近くでできるだけの加工をし、釜入れ直前の段階で運搬することにしました。

また、裁断作業も昨年は一本一本70cmに計って切断しましたが、今回は定尺の型枠を作成してまとめてチェーンソーで行うことにしたので、かなり作業は効率的になると思います。

また、アート用に寝曲がりや変形した竹を別途収集しました。



2 立沢里山の会の総会

平成22年2月6日（土）午前10時から、中央図書館の会議室において立沢里山の会の総会を行いました。

主たる議事内容は平成21年活動実績報告、予算決算承認、会計監査報告、22年度事業計画の決定などです。予算決算などについては原案報告どおりに承認されました。

主な議事内容は以下のとおりです。

4 炭焼きの準備

3月6日(土)と22日(月)に駐車場において、炭焼きに向けて竹材の加工作業を行いました。各自が自由な時間に追加作業をしてくれたので、順調に進みました。

やはりチェーンソーで定尺に切断する作業は効率的で、雨模様で少ない時間にもかかわらず、数時間で大方の竹材を裁断できました。

3月27日(土)の定例会で田んぼの整備と竹材の運搬作業を行いました。

軽トラックで県自然博物館まで3回往復して完了しました。里山では窯の規模に対して少ないかもしれないと心配していましたが、現場に運んでみると十分な材料のようです。

当日は天気もよく温かくなってきて、池にはたくさんのメダカが泳ぎだし、セリ採取のお婆ちゃんも大勢きて、春らしい季節になってきました。



5 窯入れと花見

4月3日(土)9時から、自然博物館内の炭窯に竹材の詰め込み作業を行いました。

今回は竹炭アート用に新たな材料を選別し、18缶缶に3個、新塩を竹に詰めて焼くという提案もあり竹筒で3本用意しました。これまた、焼き上がりが楽しみです。

竹材の結束作業や炭窯の補修作業などが少し残っていましたが、去年の経験もあり皆の手順もいいため、何とか昼過ぎには詰め込みが終了しました。搬入した竹材は10束くらい余った程度で、やはりかなり大きな窯だったと実感しました。

後は6日(火)に余熱火入れ、8日(木)に本火入れを行う予定で準備万端となりました。

おりから、炭窯の目前にある神社の桜も咲いてきて、絶好の花見日和となってきました。ただ、博物館は公共施設で飲酒は禁止、桜並木のある向かいの神社も民地であることから、車の運転のこともあり、いったん片付けて守谷に帰って花見をすることにしました。

「立沢里山の会」の名前にこだわったわけではないのですが、場所は「立沢公園」にしました。昨年焼いた竹炭を使用し、コップも箸も竹製とこちらはかなりこだわり、里山で採取したクレソンも登場してバーベキューをやることにしました。季節的にタケノコには少し早かったのが残念でした。

竹炭はバーベキューにむかないのではと思っていましたが、着火もよく火力の立ち上がりも早いので抑え気味に調整すれば十分に活用できることがわかりました。

前日の強風雨と打って変わって陽気に恵まれ、ほぼ八部咲きの桜を満喫できました。



6 火入れと閉塞

4月6日(火)に余熱の火入れを4~5回実施し、一旦閉塞した後の4月8日(木)本火入れです。

今回は火口を10×30cmと広めにし、下から炭、杉の葉、小牧、木と積み重ね、9時30分に着火、以降1時間毎に木材投入を繰り返し、午後2時半6回目を投入した時点で煙の温度が80℃となったのでクヌギ、コナラを最終投入して竹酢液の回収を開始しました。ところがなかなかその後の温度が上がらず、午後5時半になってようやく85℃に。7時に火口を縮小し竹酢液のタンクを入れ替えしました。以降午後11時半、9日(金)午前6時半、12時とタンクが満杯となり、午後6時半に中止するまでタンク4本の回収ができました。

10日(土)は午前11時に煙突出口の煙の色が白から青になってきたことから、一旦開口し様子を見て火止めのタイミングを判断することにしました。

昼時になったこともあり、一旦窯を離れて博物館の企画展「渡り鳥」をのんびりと見学しました。

午後1時すぎに窯に戻ってもまだ煙の色は変わらず、なかなか聞いていたとおりの透明にはなってくれません。夕方5時まで待ってまだ青い煙は出るが温度が十分と判断して全閉塞のタイミングと判断しました。8日(木)の午前9時半から10日(土)午後7時までの2日半の作業でした。

一方、空き時間で向かいの神社から広葉杉の実を拾ってきて、缶にいれて焚き火で焼いたところ結構まとまな炭になり、小さなものなら何とかかなりそうなのが解りました。

今年は桜の花も長く咲いて陽気にも恵まれるのかな炭焼きを楽しめました。



7 窯出し

4月10日(土)に全閉塞した炭窯はすでに1月以上経過しており、気にはなっていました。5月16日(日)に竹炭の取り出しを行うことになりました。



当日は晴天の静かな日和でした。もしかして「全部燃えてしまって空っぽかもしれない」と多少不安な気持ちで入り口を恐る恐る開けてみると奥のほうに竹炭が見えてきて一安心です。

早速取り出してみると、なかなか金属音のいい出来栄で、昨年は底部に少し焼きムラがありました。今回はすべてきれいに焼きあがっていました。やはり、火止めのタイミングがポイントですね。4月10日の午後半日我慢したのが良かったようです。

中間部から竹炭アート用の18缶も無事出てきました。これまた、わくわくしながら開けてみると立派に焼きあがっていました。例の新塩はどうなったか見当たりません。竹が焼ける際に割



れてしまったようですが、蓋にしていた銀紙が出てきて場所を特定することができました。やや黒く焼けてはいましたが塊となって出てきました。なめてみるとやはり塩には違いがないのですが、すっきりとした味わいでした。

8 移植した花は

昨年は池周辺に、大賀ハス、スイ蓮、コウホネ、アサザ、キショウブなど数種類の花のある植物を移植してみました。

ところがザリガニの大群にやられてしまい、年度後半にかなり駆除したことから、今年はどうかと期待していました。しかし、春になっても芽を出すものとそうでないものに分かれてきました。もっとも元気良く花を咲かせたのがキショウブです。これは同じ立沢里山の一部から移植したので、ほぼ同様の環境だったのでしょう。大賀ハスは困いの中で比較的元気に新芽が伸びてきました。他はどうもかんばしくありません。おそらく、土壌の色から推測してかなり深くまで酸欠状態で根を下に伸ばせないのではないかと思います。植えるのではなく、池の土の上にそっと置くだけにしたほうがいいのかもかもしれません。

